

夕刊フジ

2011年(平成23年)6月30日 木曜日(29日発行) <日刊>第12753号

昭和44年2月28日
第三種郵便物認可



4910853612915 00124

AB
統合版

補佐官 実は 志願の狙い

亀井

中鎖匠

あさま山荘事件をほりめぐり

国民新党の亀井静香代表が、菅直人首相の懐に潜り込んだ。唯我独尊、被災地を無視して、政権延命だけに邁進する菅首相の特別補佐官には志願して就任したというのだ。狡猾な内閣人事と、絶妙な亀井氏の距離感。

鈴木哲夫の

永田町

核心リポート

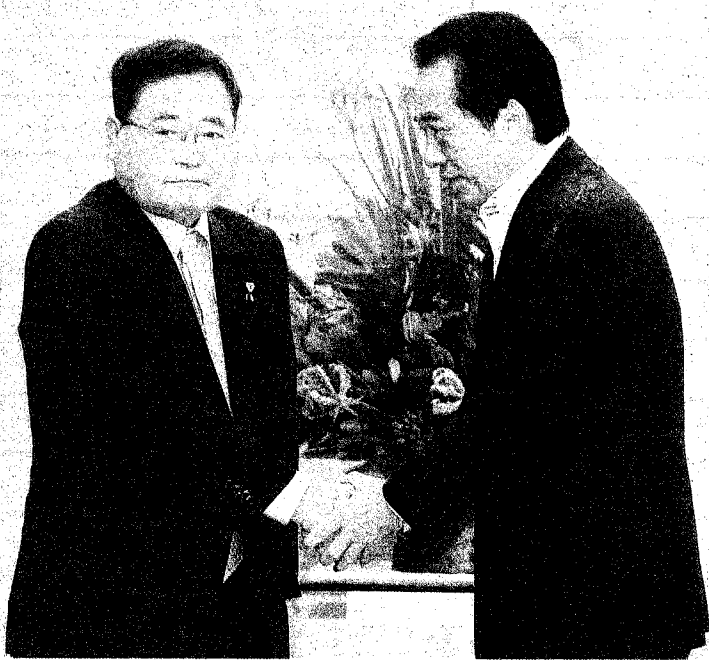


離感。39年前のあさま山荘事件をほつふつさせる官邸籠城に、当時、事件解決にあたった元警察官僚が鎮庄作戦に乗り出すのか。政治ジャーナリストの鈴木哲夫氏が知られる核心に迫った。

「これでは理念のない人事になってしまつと、思わず言いそうになつた」（首相と話した議員）

その通り。今回の人事に理念などはない。あるのは、政権延命のためにどういった人事をやるか、その1点だったのでないか。

「今回の人事は復旧・復興。そして、原発対応がその目的に尽きる」菅首相は27日夜の記者会見でこう話した。



菅首相④と握手する亀井氏。特別補佐官として官邸に乗り込む真意とは

松本龍復興担当相と細野豪志原発事故収束・再発防止担当相の新任。しかし、この2人はすでに防災担当相と首相補佐官として、その仕事に当たってきた。法的権限などの限界はあったが、それも、菅首相が「すべてを任せる。責任は俺がとる」と言えば、現行法や現行内閣でやれたこと

菅首相は辞める気はないと切り離した。もう1人、大胆な内閣改造を勧め、「思い切った仕事をやれ」と進言してきた亀井氏に対しては、閣内に入れたら寝首をかかれると警戒し、これも復興相にはしなかった。

27日の本リポートで指摘したように、復興担当相になる可能性のあった2人について、菅首相は「自らを追い落とすことする敵」として排除した。まず、「いざればぜひ復興をやってほしい」と官邸に呼び戻した仙谷由人官房副長官には、一転「あなたを担当相にする

【すずき・てつお】 1958年、福岡県生まれ。早大卒。テレビ西日本報道部、フジテレビ政治部、東京MXテレビ編集長などを経て、現在、日本BS放送報道局長。著書に「政党内操の選挙報道」（集英社新書）、「汚れ役」（講談社）など多数。

だ。何も、復興基本法の成立・施行に合わせや人事だろうか。これまで、被災地復興や原発対応は、明らかに後手後手に回ってきた。その強烈な反省とともに、この機会に担当相や復興組織を一新するはずではなかったのか。

菅の確信犯的入閣要請のウラかく

「菅首相は辞める気はない」と切り離した。もう1人、大胆な内閣改造を勧め、「思い切った仕事をやれ」と進言してきた亀井氏に対しては、閣内に入れたら寝首をかかれると警戒し、これも復興相にはしなかった。

ところが、その亀井氏に対し、菅首相は27日になって、突然、副総理兼郵政担当相への就任を打診したのだ。

菅首相周辺は「当面は数少ない応援団だから協力してもらおう」ということだろう」と解釈した。だが違う。

菅首相は、亀井氏が就任要請を断ることを分か

2面へ続く

1面から続く

27日午後2時過ぎ、菅首相と亀井氏は官邸で向き合った。

「副総理兼郵政担当相をお願いできませんか？」

「お断りする。自見(庄三郎郵政担当相)さんが私の代わりに入っている。その仕事を、親分が入っていつて奪うなんてできませんか」

菅首相の思いつきだった。「そうですね、それは残念です」で終わるはずだった。自民党の谷垣禎一総裁にいきなり電話を入れて、入閣要請したときと同じ手法である。

断られることを見越して申し入れ、当然のごとく断ったら、「ああ、そうですねか」と引き取り、「谷垣さんは、入ってくれなかった」という顛末に仕立てる。悪者は断ったほうだ。事実、世論は

谷垣氏を批判した。ところが、亀井氏は一枚上だった。

「では、せっかくなので副総理のお気持ちですから、閣僚の外側で、補佐官としてお手伝いしましょう」

菅首相は面食らった。副総理までお願いしたのに、補佐官の申し出を断るわけにはいかなかった。菅首相は飲まざるを得なかった。

こうして、亀井氏の大物補佐官が決まったのだ。この決着が含む意味は限りなく大きい。今回の人事を外野から見ている

権限はないが自由に発言

井氏に近い自民党ベテラン議員が言う。

「補佐官は権限も何もない。ただの助言者だ。一方、副総理であろうと閣内に入れば、その立場は首相の下になり、どこまで行っても支えざるを得ない。一連托生になる。補佐官なら、官邸に自由に入っていくパスポートを手にしたことになる。権限はないが自由に発言できる。亀井さんは限られた政策ではなく、政務全般で助言できるといふから、どんどん発言することが出来る」

亀井氏は、消費税10%にも反対、TPPにも反対だ。このほか、原発や震災復興、国会対策や人事でも官邸に押し掛けては菅首相が困惑するような進言をすることが出来るわけだ。

最後には、大連立などを仕掛けながら、声高に退陣を迫るかもしれない。

「菅さんは、官邸に厄介な存在を抱えてしまったことになる。今回の人事では、菅さんが策に溺れて、ついに亀井さんに差し込まれてしまった」(同ベテラン)

28日の両院議員総会。民主党議員の厳しい追及に対し、菅首相は退陣時期を示さず、公務を理由に1時間足らずで会場をあとにするなど、強気の姿勢を崩さなかった。

しかし、懐に抱え込んだ策士・亀井氏は命取りになる危険性をほらむ。「いまの官邸を『総括』と称する粛清を繰り返した連合赤軍が立てこもったあさま山荘に当てはめればいい。まさに当時、亀井さんは警察庁警備局の担当官として、事件解決のために現場に乗り込んでいった。それと似た構図じゃないか」(同ベテラン)